

米国北西部のサクランボ 小玉が多く価格が低下

FreshPlaza 2023年7月5日

マウントアダムスフルーツ社のアンドレス・プフォーゲル氏は、ワシントン州とオレゴン州のサクランボの作柄に言及して、「サクランボの出荷シーズンは全く正常でない。今年は開花が本当に遅く、例年より2週間ほど遅い。また遅いだけでなく、非常に短期間に集中した」と言う(以下「」は同氏の発言)。通常年には、一つの品種の開花期間が約7～10日ある。一部の品種は他の品種よりも早く開花するため、通常、開花期間全体では数週間かかる。「しかし、今年は約3日で開花が終わった。」このため、収穫も集中することになるだろう。「収穫期間は、2か月ではなく約6週間になると思う。」出荷シーズンは6月1日ではなく6月15日に始まり、ワシントン州では7月末に終了すると見られる。

低価格

開花中の暖かい天候のために、ほとんどの品種はうまく着果するか、着果が多すぎた。「多くの品種で着果数が多く、果実が多すぎて小玉になっている。」コルディア (Kordia) 品種とレジーナ (Regina) 品種は例外である。それらは暑い天候を好まず、今シーズンは収穫量が少ない。小玉の果実が多くなると、価格が低くなる。「最も小玉の20ドル/箱から最も大玉の50ドル/箱まで価格の幅がある。これは、平均的な年の30ドル/箱から100ドル/箱の価格と比較して非常に低い。20ドル/箱だと収穫の費用さえ払えないので、多くの生産者は小玉の果実を木に残すことにする。」

小さな果実を収穫することを決めた生産者はそれを加工施設に出荷するが、缶詰と塩水漬け(マラスキーノチェリー用)の施設は満杯で、今の時点でこれ以上の量を受け入れられない。はるかに規模の小さい冷凍部門はまだ開いていない。現状では価格が安いので、誰もが晩生の品種に期待している。「うまくいけば、出荷シーズンの終わりに向かって価格が改善するだろう。」

輸出市場

大玉のサクランボは国内外で好まれる。「弊社の果実の約20～25%は、主に日本、韓国、中国に輸出している。」少量はベトナムとシンガポールにも出荷される。「海外市場では大玉の果実が好まれるが、小玉の果実も少しは受け入れられている。」

カリフォルニア州産サクランボの出荷シーズンと重なると、価格にさらに下向きの圧力がかかる。通常、カリフォルニア州産とワシントン州産が同時に市場に出るのはほんの数日間だが、今年は重複期間が約2週間ある。「カリフォルニア州産のシーズンは終わりつつあるが、市場にはまだカリフォルニア州産の果実が多すぎる。」

アーリーロビン品種

プフォーゲル氏はソーシャルネットの LinkedIn にアーリーロビン (Early Robin) 品種の写真を投稿した。レーニア (Rainier) 品種に似た二色の品種であるが、収穫の開始は通常5～7日早い。「アーリーロビンの欠点は、レーニアほど着色が良くなく、着果が難しいことである。しかし、今年はかつてないほど着果した。」その結果、樹上の果実が多くなり過ぎ、果実の着色が進んで目的の糖度に達するまでに時間がかかった。それはアーリーロビン品種が早生であることの利点を消滅させ、収穫はワシントン州の主要品種であるレーニアとほぼ同じ時期になった。

執筆者: マリーケ・ヘムズ